



横須賀市立大塚台小学校学校だより

大塚台の風



校長 山崎 亨

命を守る学び「着衣水泳」

間もなく梅雨明けを迎える頃となり、暑さも本格的になってきました。気温が上がるとともに、子どもたちは水泳の授業を楽しみにするようになり、笑顔と歓声がプールサイドに響く季節です。

本年度から全学年で実施することとなった「着衣水泳」の授業。水泳といえば、水に親しんだり、泳ぐ技術を学んだりすることを思い浮かべるか



もしれませんが、着衣水泳はそれとは少し違います。



着衣水泳とは、衣服を着たまま水に落ちてしまったとき、どう行動すれば命を守ることができるか。“もしも”の場面で、自分の命を守るためにどう行動するかを学ぶのが着衣水泳です。保護者の方の中には、

小学校時代に着衣水泳の経験がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

普段の水泳では、水着を着て自由に泳ぐことができますが、万が一、日常生活の中で海や川、湖などに誤って落ちてしまったときには、服を着たままの状態だと、あわてる⇒パニックを起こす⇒溺れる⇒命



を落とすという過程をたどってしまうことになります。

着衣水泳では、衣服が水を吸って重くなったり、動きづらくなったりすることを実際に体験し、「無理に泳がず、浮いて待つ」ことの大切さを学びます。つまりこの授業の目的は、「水の事故に遭ったとき、

自分の命を守る方法を知ること」にあります。

日本は水に囲まれた国であり、ここ横須賀も、すぐ近くに海がある土地柄です。夏休みになると、家族や友人と海や川などに出かける機会も増えるでしょう。その一方で、毎年のように水の事故が全国で報告されており、「まさか」の瞬間は誰にでも起こり得ます。夏休みに向けて、海や川でのレジャーも増える時期だからこそ、「命を守る行動」を学ぶこの授業の意義は非常に大きいと感じています。



合言葉は「浮いて待つ！」

授業では、子どもたちが長袖シャツやジーンズ、くつを着用したままプールに入りました。水の中での動き



づらさに四苦八苦したり、ペットボトルを使って体を浮かせる練習をしたりと、真剣な表情で取り組んでいました。最初は戸惑っていた子も、先生の話をよく聞きながら、安全に体験を進める中で、もしものときは、「無理に泳ごうとしない」「落ち着いて浮いて待つ」「助けが来るまで体力を温存する」といった、慌てずに！の

意識を少しずつ持ちはじめた様子が見られました。

この授業を通して、泳ぐ力だけでなく、命を守る知恵と冷静な判断力を少しずつ身につけてくれればと思いますが、学校の授業だけではカバーしきれない部分もあります。どうかご家庭でも、海や川へ出かける前には、「水の事故を防ぐためにできること」「もしものとき



はどうするか」について、ぜひお子さんと一緒に話し合ってみてください。